



KOJIMA SUSUMU

深谷市長 **小島 進**



OKANO MITSUTOSHI

富岡市長 **岡野 光利**

## 新春対談

### 渋沢栄一の開拓力に学ぶ

# 深谷と富岡の近未来

昨年、政府が世界文化遺産への推薦を正式に決定した『富岡製糸場と絹産業遺産群』。この富岡製糸場（群馬県富岡市）の建設には、渋沢栄一をはじめとする深谷の偉人たちが大きな貢献を果たしました。渋沢栄一が結んだ『深谷と富岡』。小島深谷市長と岡野富岡市長に、両市のこれからについて語っていただきました。

富岡製糸場が世界文化遺産に推薦決定!!

## 渋沢栄一、尾高惇忠、 富岡製糸場を支えた深谷の三偉人

**小島市長** 正式推薦おめでとうございます。富岡製糸場が世界文化遺産に登録されれば、渋沢・尾高・菲塚の顕彰に通じますので、深谷

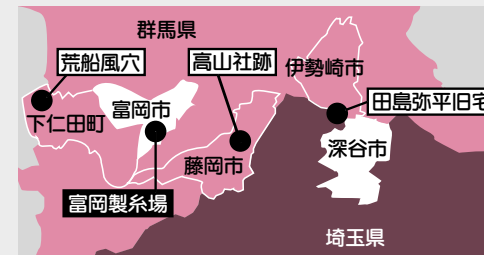
市にとっても大きな喜びです。  
**岡野市長** ありがとうございます。深谷市輩出の三偉人のおかげで今があると思っています。

**小島市長** 明治という新しい時代を切り開いた先人たちは、国のことを思う強い意志・思想がありました。その礎は教育力です。

富岡製糸場建設に尽力した深谷の三偉人

富岡製糸場は、西欧から最新の技術を導入し設立された国内初の官営製糸場です。明治3年、殖産興業を進める明治政府は貿易による外貨獲得のため、模範的な洋式製糸場の建設を計画しました。そこで、当時、養蚕が盛んだった富岡に製糸場を建設することになり、設置主任として指揮を執ったのが渋沢栄一でした。栄一は、いとこの尾高惇忠や菲塚直次郎らとともに力を尽くし、明治5年、官営製糸場の創業を成し遂げました。

『富岡製糸場と絹産業遺産群』の位置図



世界的にも絹産業の発展に重要な役割を果たした『富岡製糸場と絹産業遺産群』

**尾高惇忠**

栄一の学問の師。栄一の命により、富岡製糸場の設立の任務に就くと、敷地選定から携わり、建設現場の実務にも当たりました。創業後は、初代工場長として工女の募集に至るまで尽力しました。工女の募集に際しては、長女（尾高勇）を第1号として入場させました。また、採用した工女には人間性を重視する教育を施しました。

**菲塚直次郎**

惇忠の下で、煉瓦・瓦の製造責任者を務めました。製糸場建設には、大量の煉瓦が必要でしたが、当時、煉瓦は極めてまれな建築資材であったため調達に困難でした。直次郎は瓦に精通していたため、郷里から熟練の瓦職人を集め、試行錯誤の末、ようやく煉瓦の製造に成功しました。また、煉瓦を接着させるため、しっくいを加工した接着剤を開発するなどして、製糸場の建設に大きな役割を果たしました。



東繭倉庫：乾燥させた繭の貯蔵を主な目的とした倉庫で、西側にも同規模の建物（西繭倉庫）が配置されています。東繭倉庫は、富岡製糸場に入ると最初に目にする建物です



繰糸所（内部）：富岡製糸場の中核施設として、繰糸（数本の繭糸をより合わせ生糸を作る）が行われました



女工館（2号館）：富岡製糸場で、フランス式の器械繰糸技術を工女（製糸場の若い女性労働者）に教えるフランス人女性教師（教婦）の宿舎として、明治6年に建設されました

当時、この地域では利根川が輸送の大動脈で、物資だけでなく文化や思想が伝わりました。私塾が盛んで、中瀬河岸は情報の集積地でした。今、利根川に代わるものが高度情報通信です。これを念頭に、深谷市では小・中学校におけるコンピュータなどの情報通信環境の整備に力を入れています。整備率は県下40市で1番です。また、栄一の私利を求めず公益に働く不屈の精神を学んでほしいと思い、副読本とし

て『渋沢栄一（こうざい）副読本』を刊行し、小・中学校の道徳の時間などで活用しています。偉人を輩出した郷土を誇りに思ってもらいましょうね。**岡野市長** 富岡製糸場は近代日本の産業基盤をつくり、人材育成の面でも大きな役割を果たしました。工女たちは教養と人間性を高めることが不可欠だという懐念の考えの下、日本初の企業内学校が設立されています。これが女子教育の始まりだと言えるでしょう。こ

のような歴史ある製糸場を知ってこそ、子どもたちは郷土に誇りが持てるというものです。富岡では昨年、富岡のまちづくり400年を記念して『富岡のまち』を刊行し、全市配布しました。立憲式では市内の中学校2年生全員にメッセージを付けて配る予定です。製糸場の創業にかかわった人は皆若くして国の一大事業を成功させました。自立自立てる若い世代を育てていきたいです。

## 富岡と深谷の活性化戦略 世界文化遺産は広域観光の核

**岡野市長** 観光という点では、まず、富岡製糸場を保存しながら、活用していくことを考えています。富岡製糸場は工場です。なぜ工場が世界遺産になるのか。その疑問に答えるためにも、製糸場を積極的に活用し、価値を伝えていきたいです。

それから、製糸場の観光客を街中や妙義山へ誘導する仕組みを確

立しようと、近隣の観光地からノウハウを勉強しています。また、富岡を中心とする周辺一帯の活性化ができるよう、深谷市とも連携を図っていきたいです。富岡製糸場を世界遺産に推薦することになった途端、1か月の来場者数が2万人から4万人に増えました。この世界遺産効果を深谷をはじめとする周辺地域に浸透させること

も富岡の役目だと考えています。**小島市長** 岡野市長がおっしゃるように、富岡製糸場は工場です。ではそこに何が求められるかといったら、わたしはストーリーだと思っています。世界遺産とは、世界にどれだけ影響を与えたかを示すもので、富岡製糸場はまさに世界の絹産業界を一新したシンボルなのです。富

岡製糸場の世界遺産登録を機に、富岡製糸場建設に尽力した深谷の三偉人が、どのように近代産業を築いていったかというストーリーを全国に発信できればと考えています。そのためにも、今後、富岡

市との連携を強化し、渋沢、尾高・荏塚を全面に出し、製糸場と関連の深い伊勢崎市なども含めた広域観光戦略を展開したいと思っています。

では、花園IC周辺の活性化に取り組んでいます。花園ICは深谷のみならず、秩父・長瀬を含む北関東の玄関口でもあります。観光と農業を「コンセント」に周辺一帯で連携し、活性化を進めていきます。

## 夢が広がる深谷と富岡

### 歴史・文化を共有

**岡野市長** 富岡の絹産業は、残念ながら縮小状態にあります。製糸場が世界遺産に登録されたとしても、製糸場の建物だけが残っているのでは、その意味は半減してしまいます。この産業を保存することが富岡の使命だと感じています。

また、保存と同時に、富岡に絹産業を集約した施設を建設できればと思っています。富岡に来れば絹産業のすべてがある。養蚕から製糸、染色、機織り、デザインま

しくあるには、市だけでなく、市民の皆さんのお力も必要です。市と市民が一体とならなければ、観光客は満足しないと思っています。古い街並みや歴史、市民一人ひとりのおもてなしの心で、富岡を訪れるかたにリラックスできる空間を提供できればいいですね。

してほしいです。現在でも、市内の数が実施していますが、深谷の子どもたちに富岡製糸場を見学して、富岡と深谷のかかわりを知ってもらおう。また、富岡の子どもたちにも、深谷市内にある栄一らの施設を見てもらう。実のある交流をしたいですね。また、こういう時代ですので、災害の面でも相互支援ができればと思っています。この機会に歴史と文化を共有し、連携を強化していきたいですね。

で、絹産業のすべてが体験できれば、観光客の皆さんに満足していただけるのではないのでしょうか。富岡が世界遺産のまちにふさわ

は深谷と富岡の子どもたちに体験

**小島市長** わたしもそう思います。